

「追跡調査結果を用いた NEDOのプロジェクトマネジメント 高度化に関する基礎調査」

公募説明会【補足説明資料】

2019年12月16日
N E D O 評価部

(参考文献)

研究・イノベーション学会
第34回年次学術大会 講演要旨集

<http://jsrpim.jp/?cat=4>

2 E 0 3

ナショナルプロジェクトにおける最適な実施体制の在り方に関する一考察

○上坂真 (NEDO)、功刀基 (NEDO)、須永吉彦 (NEDO)、松井萌 (NEDO)、
梅田到 (NEDO)

1. 分析方法（アプローチ）

⇒適切な実施体制を構築するマネジメントが現場のプロジェクトマネージャーの裁量に委ねられているため、実践的に活用するための暗黙知から形式知化

<アプローチ>

- ①研究開発段階に応じた最適な実施体制が存在と仮定
 - ②判断軸として、ナショプロ事例として実施体制を分類
 - ③「類型」≡「研究開発段階」として対応
- ⇒最適なプロジェクトマネジメントが行われていれば、各段階に応じた実施体制がアプライに採用。逆に最適なプロジェクトマネジメントが行われていなければ、否。
- ⇒ナショプロの研究開発段階が上がれば、プロジェクト終了後からの実用化率は上昇すると仮定。実施体制の類型毎にプロジェクト終了後の実用化率を調べれば、その分布の高低は、研究開発段階に対応。

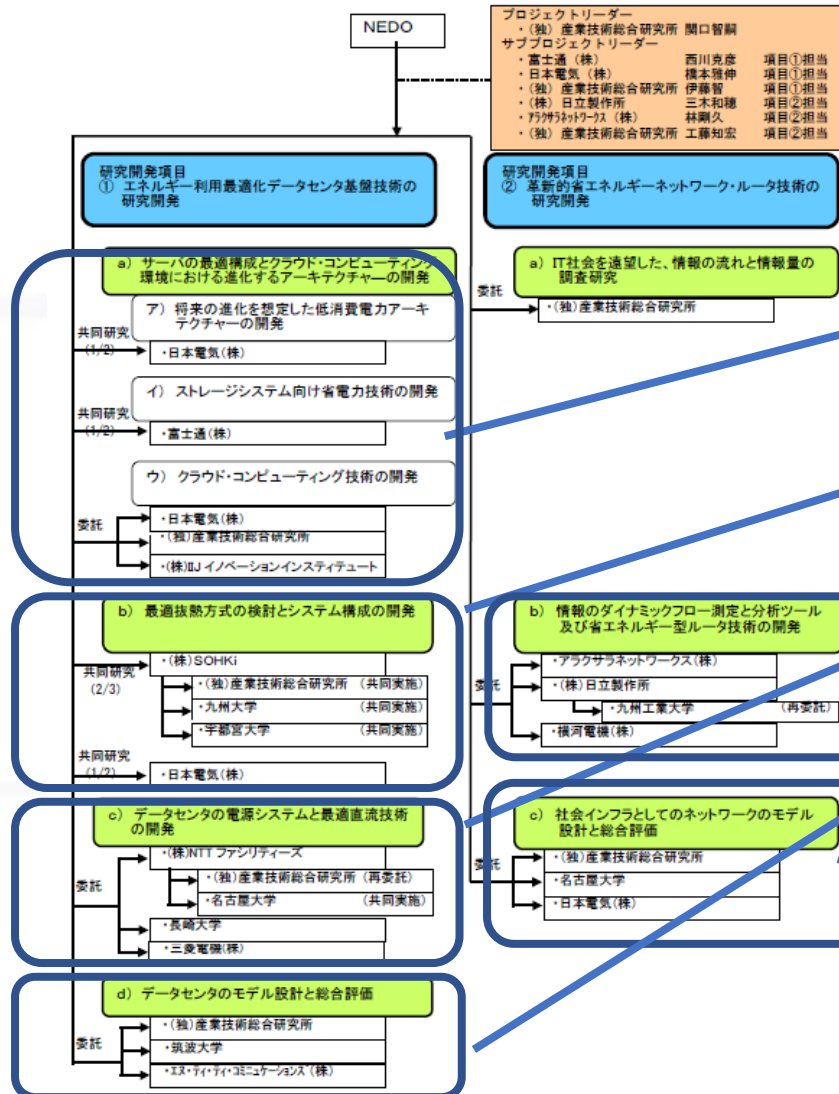
2. 分析方法（内容）

1. NEDOが実施したナショプロにおける実施体制の具体的な **類型化方法を定め**、4つの類型にまとめた（表1）。
2. この類型化方法に従い、ナショプロの **各種情報から類型化**を行い、 **実用化の状況との関係について検証**する。

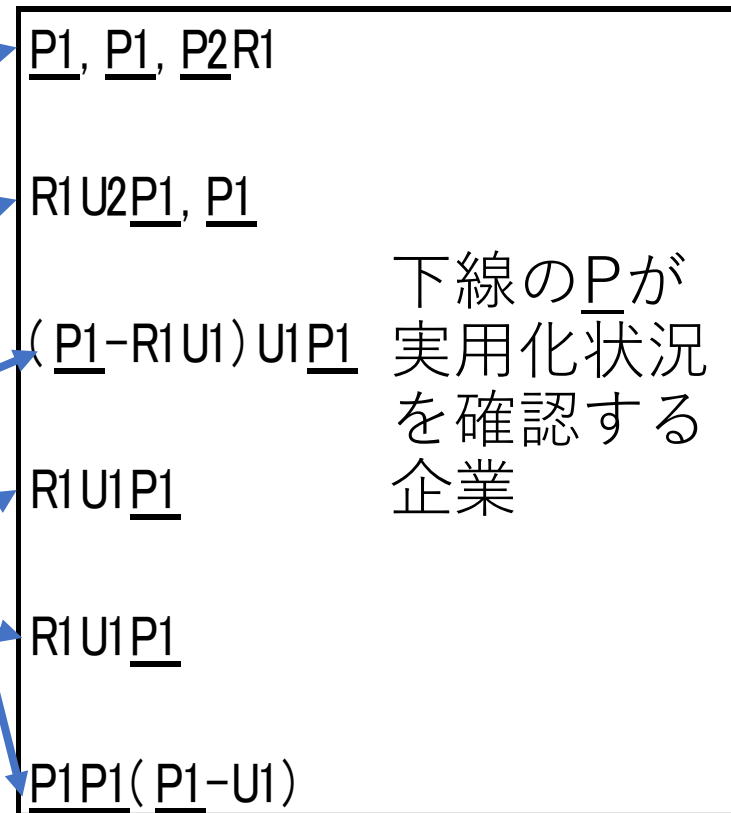
表1：類型と模式化の定義

類型	I	II	III	IV	記号	参加機関	備考
模式記号	U-PR	[PR]-U	P,p,pp -RU	P-RU	P	企業	
説明	大学主体	水平連携	垂直連携	企業主体	P, p, pp	企業	サプライチェーン上の製造(P)、部材(p)、材料(pp)メーカーの区分
接続記号	関係性	備考			R	公的研究所、財団等	企業、大学以外を含む
なし	委託、共同研究	順序は実施体制図等に従う			U	大学	
-	再委託、共同実施	順序は実施体制図等に従う			[]	技術研究組合等による集中研	[] 内に構成機関をP等で記載
>	中心、主従	実施体制図等から明らかに判断できる場合			(その他)		
(注) 同一テーマに複数体制がある場合には改行でグルーピング					<ul style="list-style-type: none"> ・ 機関数は記号の後に数字で表示。 ・ 各参加機関の順序は、実施体制図に合わせて表示。 		

(参考) 実施体制の模式化例



ナショナルプロジェクトの実施方針や事後評価報告書の実際体制から模式化



下線のPが
 実用化状況
 を確認する
 企業

3. 仮説

ナショナルプロジェクトを類型化した実施体制で分類すると、研究開発段階毎の時系列に整理されるとともに、その成果である実用化率（短期的アウトカム）との間に、正の相関がある（図3）

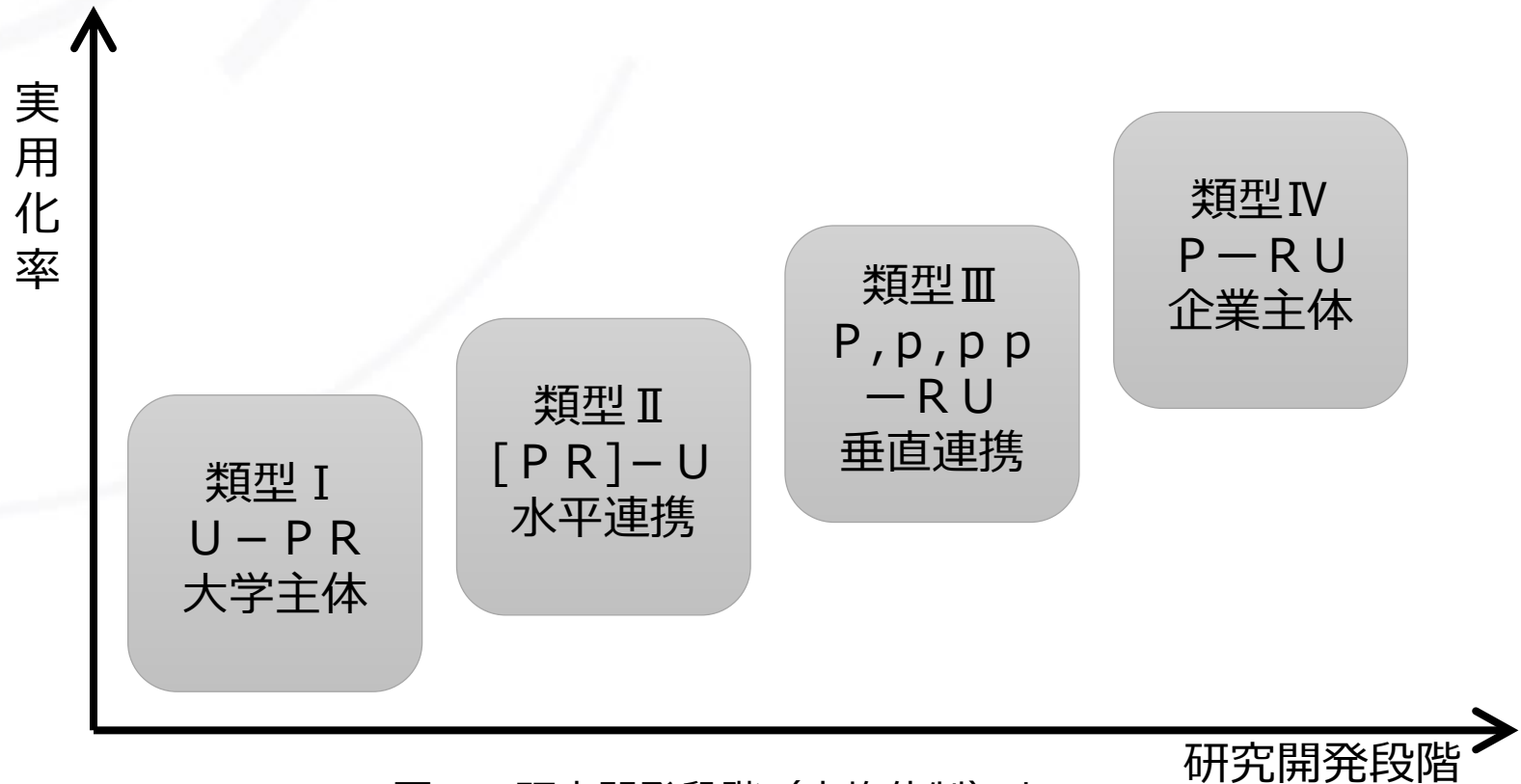


図3：研究開発段階（実施体制）と実用化率の関係について【仮説】

4. 結果・検証

- 2012年度終了プロジェクト20件を類型化。類型毎の実用化率の関係については、類型に属するナショプロ毎の追跡対象企業の状況を合計した上で、類型毎の数値を求め、相関係数0.98で正の相関を示した（図2及び表2）。

表2. 類型と実用化率の関係

類型	プロジェクト数	調査対象企業数	実用化件数	実用化率
類型 I	1	6	0	0%
類型 II	7	76	17	22%
類型 III	2	18	7	39%
類型 IV	10	66	32	48%

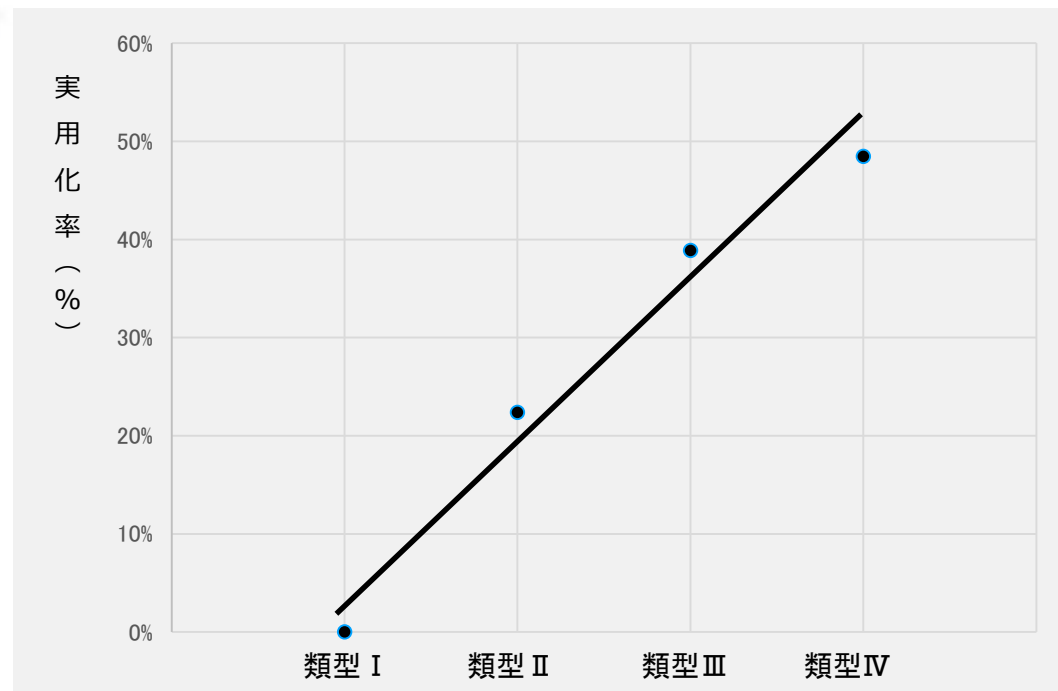


図4. 実施体制の類型（研究開発段階）と実用化率の関係